

サブカルモザイク

中野5丁目のトポロジー



宗田 悠吾
建築設計計画研究室



□コンセプト

本設計のコンセプトは二つあり、

- 1、中野ブロードウェイに対する動線改善
- 2、1によって変わった動線に中野5丁目商店街を対応させる。

この二点である。

飲み屋街として賑わう中野5丁目商店街は現在地上げの対象となっており、景観の悪化や商店街としての連続性が危ぶまれる状態である。今回のコンセプトは地上げに対抗し、商店街の独自性と活気を取り戻すという目的のものである。



内観パース

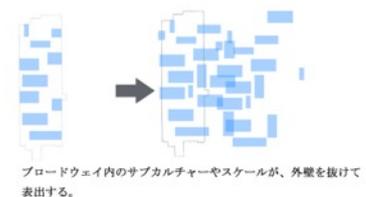
□プログラム

プログラムは、ブロードウェイ別館の改築、商店街の一部の改築の二点である。

入れ込む要素は中野ブロードウェイ的なサブカルチャー要素、狭小高密なスケール、飲食用途の施設が主になる。

現存の中野5丁目商店街の中心要素である飲食系はもちろんのこと、中野の象徴ともいえるサブカルチャーのコンテンツを導入する。これを街に散見させることで独自性と連続性を高める狙いだ。

これらをブロードウェイと5丁目に共通する狭小高密なスケールで統合し、全体の景観と雰囲気なじませる。



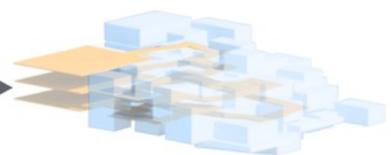
ブロードウェイ内のサブカルチャーやスケールが、外壁を抜けて表出する。



ブロードウェイからあふれたポリウムたち



スロープ状の動線



スロープはポリウムをつなぎ合わせ、地上まで続く動線に

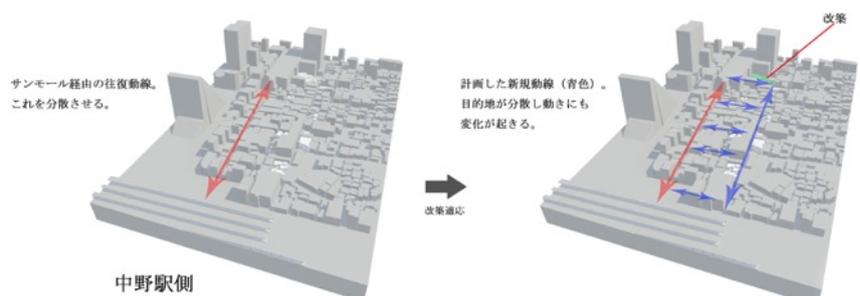
□デザイン

別館改築のデザインプロセス

ブロードウェイの要素が外壁から溢れ出す。
→それらをスロープ状の動線がつなぎ合わせる。
→サブカルチャーを体験しながら人は商店街へ流れ出る

商店街側のデザインプロセス

先のサブカルチャーの要素が街にも散らばる
→散らばった類似する要素同士は見えない関連性を形成し、連続性が生まれる。

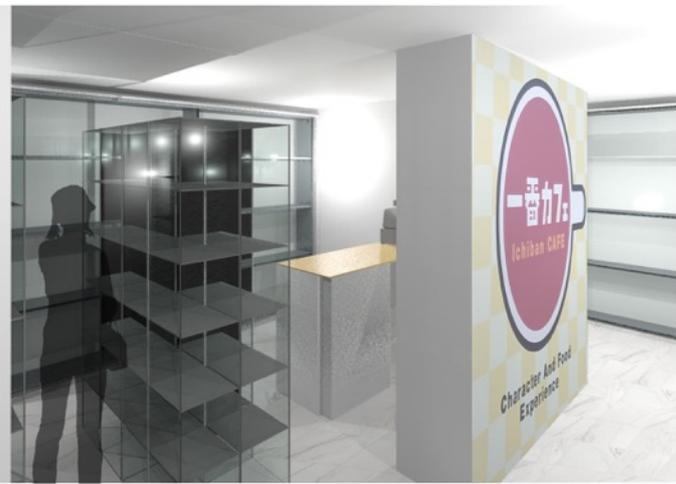


サンモール経由の往復動線。これを分散させる。

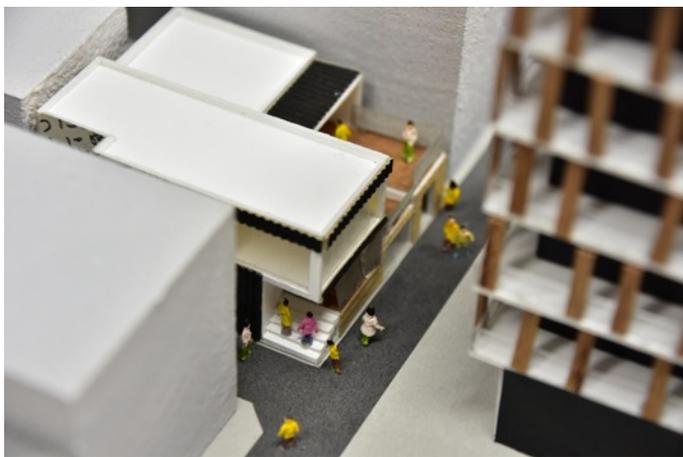
計画した新規動線（青色）。目的地が分散し動きにも変化が起きる。

改革適応

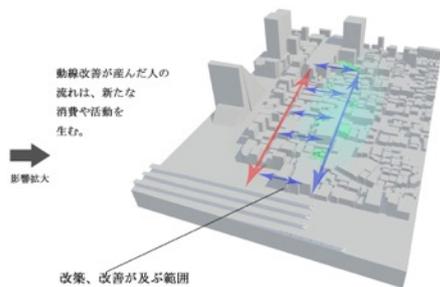
中野駅側



内観イメージのレンダリング



模型写真。狭小高密なスケールに多くの人が集まる。



動線改善が進んだ人の流れは、新たな消費や活動を生む。

全体の計画コンセプト。
 1、ブロードウェイの改築
 2、商店街の一部改築
 3、影響の伝搬
 という三段階からなる。



全体計画平面図